



## 目次

- 生産現場情報**： 園芸メガ団地施設で法人経営の安定化を図り地域農業の未来を拓く  
～農事組合法人 下黒土アグリ～ P1～5
- 営農支援情報**： 令和6年産大豆の収穫から選別・調製に向けて P6～7
- ご紹介**： 令和6年度「ミスあきたこまち」の7人が決定しました！ P8
- お知らせ**： 第147回種苗交換会開催について P9

# 生産現場情報

## 園芸メガ団地施設で法人経営の安定化を図り地域農業の未来を拓く ～農事組合法人 下黒土アグリ～

### 1. 法人設立の経緯

秋田県大仙市清水下黒土は、仙北平野（中仙町）の真ん中に位置し、北には角館、南は大曲に挟まれた稲作の盛んな地域です。そこに根差した農事組合法人「下黒土アグリ」は平成25年の農業圃場基盤整備を契機に、集落営農組合と個人農家が結集して設立され、現在も担い手中心となった農業を志しています。

下黒土アグリでは、水稻約42haと大豆約46haの他に農事組合法人上黒土と共同で、米依存からの脱却や管内の園芸振興に更なる弾みをつけるため、JA秋田おぼこが平成27年に着手した園芸メガ団地（大仙市中仙地区60棟パイプハウス）のうち44棟を借り受け、夏秋トマト（40棟）、花卉（葉牡丹2棟、りんどう1棟）を栽培しており、他ハウスについては、アスパラガスやりんどうの栽培をしている個人農家へ貸出しを行っています。



法人名：農事組合法人 下黒土アグリ  
設立：平成26年（2014年）1月21日  
代表者：代表理事 鈴木 次男  
所在地：秋田県大仙市清水字下黒土1787  
構成：5名（うち役員：理事3名、  
監事2名、臨時雇用22名）



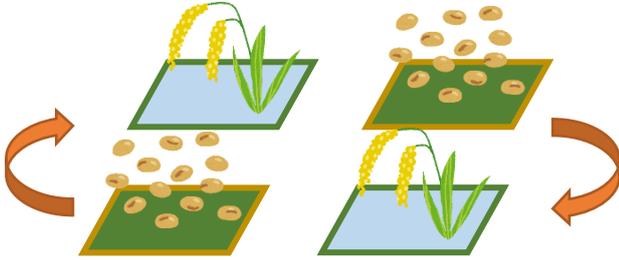
朝採りトマト直売所  
【営業時間】  
毎週 月～土曜日  
9:00～17:00



鈴木代表理事

## 2. 経営の概要・特色等

下黒土アグリは圃場をいくつかのブロック（区画）に分け、2年に1回のペースで水稲と大豆を転作するブロックローテーションを行っているため作業性は良く、大豆の連作障害がみられないのが利点です。



水稲・大豆のブロックローテーション  
(イメージ)

### 【水稲】

水稲は、生産コストが上昇している中、いかにコストを下げられるのか課題となっています。あきたこまちを中心にサキホコレ、ちほみのりを作付け、今年度より業務用米としてJAより提案されたミルキークィーンの作付けを行いました。

### 【大豆】（リュウホウ）

大豆は、仙北市仙北堆肥センターからの堆肥を購入して経費節減をしながら栽培を行っています。

### ■水稲：42ha

- ・あきたこまち 29ha
- ・サキホコレ 2ha
- ・ちほみのり 10ha
- ・ミルキークィーン1ha

### ■大豆：46ha

### ■夏秋トマト：施設型園芸メガ団地40棟

### ■花卉（葉ボタン）：90坪ハウス2棟

### ■花卉（りんどう）：90坪ハウス1棟

### ■花卉（ストック）：90坪ハウス1棟

### ■主な施設や機械等

- ・乾燥調製作業所、格納庫
- ・汎用乾燥機（※80石）4基  
※処理能力（12,000kg）
- ・トラクター4台
- ・田植機（8条植え）2台
- ・水稲コンバイン2台
- ・大豆コンバイン2台



格納庫





たくさんのハウスが並んでいます。

【夏秋トマト】（りんか409、ひなた）

夏秋トマトはコストの抑制や管理作業の省力化を図るために、全農ういずOne（簡易養液栽培システム）を導入しています。また1人が3棟のハウスを受け持ち、品質が良く美味しいトマトを育てるために徹底した栽培管理を行っています。夏秋トマトの収穫（6月中旬～10月下旬）は、ローテーションで朝採り（5時～8時）を7～8名、朝採り未収穫トマトを含めた収穫（8時～9時）を16名のパートで作業を行い、収穫量は、最大で300箱/日（コンテナ重量約10kg）にもなります。その後、作業場に運ばれた収穫トマトをA品・B品等に仕分けをし、JA秋田おばこ園芸拠点センターに出荷します。また、直売用に袋詰めして地元産直施設「しゅしゅえっとまるしゅ」や事務所構内入口の無人販売所（1ページ目参照）で販売しています。

ハウス入り口に  
担当者名表示



収穫後、  
選果を  
行います。



【葉ボタン】（F 1 晴姿・F 1 恋姿、円『まどか』春の宴、円『まどか』春の紅、ラッフルレッド）

葉ボタンは、正月飾りとして門松と一緒に飾られるほか、冬の観葉植物として人気があります。令和元年に94坪のパイプハウス1棟を使い1万株の生産に取り組み、3年目となる令和3年には、同規模のハウス2棟に「F 1 晴姿」「F 1 恋姿」をメインに計6品種2万株の生産をしており、管理を従業員の大橋加奈美さんと藤田京子さんが担当しています。

毎年12月中旬から年末までに出荷時期が限定されるため、先ほどの管理担当2名含む3～4人体制で収穫を行います。切り花を色ごとに箱詰めされた葉牡丹は1月頃に旬を迎え、外葉が緑色、内葉が白や赤に色づき、調和の取れた色彩が特徴となっています。



【ハウシリンドウ】（ながの早生、パステル）

ハウシリンドウは、令和6年度より新たに栽培を初めました。出荷時期は、6月上旬～7月上旬までの約1ヶ月と短くなりますが、4～5月の春季の収入減を補っていけるよう、法人経営の新たな基幹品目として期待を寄せています。また、ハウス栽培のため露地栽培と比べ早く出荷され、安定した価格が確保できるようになります。まだ開始して間もないこともあり、今後は別の品種も試す予定です。（栽培ハウス1～2棟ほど）



ハウス栽培の様子



昨年末、出荷準備の様子



季節に向けた花卉栽培計画

ハウスりんどう  
(6月下旬～7月下旬)



葉ボタン  
(12月)



ストック  
(3月～4月)

3. 今後に向けての課題・取り組み

農産物の売上金額をさらに増やすために、花卉や野菜の通年作業ができるように環境を整えたいとのことでした。葉ボタンの出荷が終了した後(1月～2月頃)は、2年ほど前から「A秋田おぼこに勧められた「ストック」の栽培をスタートさせました。

さらに品目毎の反収を向上させるだけでなく、現在好評となっている野菜直売所の拡大も視野に入れており、「下黒土地域には農業を行う若者がまだまだ少なく、作業者の確保を行い、若者たちが通年で働いて収入を得られるような場所を目指したい。」と鈴木代表理事は話されていました。



営農支援部 営農支援課 ☎018-880-1011



## 令和6年産大豆の収穫から選別・調製に向けて

本年産大豆の生育期間中は高温で経過したため、全県の開花盛期は7月29日で平年より1日早くなりました。一方で、7月24日からの大雨により、浸水・冠水した圃場では、生育の停滞や株の枯死が確認されました。

秋田農試の作況調査によると6月5日播種のリユウホウで、8月19日の生育は草丈114cm（平年比107%）と平年より長く、主莖節数は15.8節（平年差+0.2節）と平年並、分枝数は3.7本（同+0.3本）と平年並となりました。

晩播の6月19日播種では、草丈102cm（平年比103%）と平年並、主莖節数は、13.8節（平年差-0.5節）と平年よりやや少なく、分枝数は2.6本（同-0.4本）と平年よりやや少なくなりました。



撮影元：農事組合法人 アグリ檜山（能代市）

### 1. 収穫

収穫は、大豆の枯れ上がり程度、莖や子実の水分状態を見極めて計画的に行うことが重要です。また、コンバイン等の調整や試運転等は事前に済ませるようにしてください。



①大豆子実の外観品質は成熟期以降、徐々に低下するため、成熟期の早い圃場から収穫してください。



②汚染粒の発生を抑えるため、莖水分50%以下（莖がポキッと折れる頃を目安）で刈り取りを行い、作業は朝露により子実が湿った時間帯を避けてください。



③コンバインへの土の掻き込みは汚染粒発生の主な原因であるため、土を掻き込まない仮高にあらかじめ調整してください。

排水性の悪い圃場や滞水し易い箇所は、コンバインの沈下に伴う土の掻き込みが予想されるため、事前に圃場の滞水程度を観察してください。圃場内の大型雑草や落葉の遅い株はあらかじめ抜き取ってください。



④脱穀後は風通しの良い場所に置いてください。

乾燥施設等の都合で刈り取り後直ちに乾燥作業を行うことができない場合、保管場所や保管方法に配慮してください。

## 2. 乾 燥

乾燥前の子実の水分と乾燥条件により、しわ粒や裂皮粒等の被害粒が発生する場合がありますので注意してください。また、乾燥温度の目安は次の通りとし、送風温度は30℃以下で乾燥速度は0.4%/h以下、子実水分を15%に仕上げてください。

- ①子実水分を18%の場合（室温＋15℃以下）
- ②子実水分を22%の場合（室温＋8℃以下）
- ③子実水分を26%の場合（無加温⇒常温通風）



## 3. 選別・調製

仕上げ乾燥後、選別機で莢雑物や被害粒等を除去し、整粒歩合の高い高品質な大豆に仕上げてください。粒径別に用いる篩い目は、大粒は7.9mm、中粒は7.3mm、極小粒は4.9mmを使用してください。

注) 記載内容等については、秋田県農林水産部発行「作況ニュース（第7号）」より抜粋掲載しておりますので、詳しくは「作況ニュース（第7号）」を参照してください。



撮影元：農事組合法人 アグリ檜山（能代市）

営農支援部 営農支援課

☎018-880-1011



## 🌱 ご紹介

### 令和6年度「ミスあきたこまち」の7人が決定しました！

令和6年度「ミスあきたこまち」が決定し、8月22日に秋田市内で委嘱状交付式を行いました。JA全農あきたの小松忠彦運営委員会会長が7人に委嘱状と記念品を手渡し、「デビューから40周年を迎える“あきたこまち”をはじめ、秋田米に関わるすべての人達へ感謝する気持ち、想いを胸に、毎日お米を食べて明るく、元気に笑顔あふれる活躍を期待しています」と激励しました。



7人を代表して林佑果さんが「あきたこまちデビュー40周年の節目となるこの1年間、秋田米の魅力と生産者の想いを全国の消費者へお届けします」と決意表明しました。9月1日からの1年間、ミスあきたこまちは全国各地で開催される秋田米の販促キャンペーンに参加し、秋田米をPRします。

鹿角から  
ひびけ未来へ  
農の夢



たんぽこ町ちゃん  
鹿角市イメージキャラクター



北限のもも



鹿角りんご



かづの牛



かぶきん  
小坂町マスコットキャラクター



第147回 先人に学び農業の未来をひらく

# 秋田県種苗交換会

会期 令和6年11月1日(金)~11月5日(火)

会場 秋田県 鹿角市

主催：秋田県農業協同組合中央会  
協賛：鹿角市協賛会

本イベントで使う全ての電気は、鹿角市内で発電された再生可能エネルギーを使用しています。

鹿角市 HP <https://www.city.kazuno.lg.jp/index.html>



**Za・あぐりふおーむ**  
Zennoh-akita agriculture+reform

J A全農あきた営農情報誌 Za・あぐりふおーむ  
第56号 令和6年10月7日発行

編集・発行 J A全農あきた営農支援部営農支援課 〒011-0901秋田市寺内字大小路207の24 018-880-1011